

食肉等の生食に対する食品安全モニターの意識の変化について

食品安全委員会では、毎年、食品安全モニターを募集[※]し、食品の安全性に対する調査「食品安全モニター課題報告（食品の安全性に関する意識等について）」を実施している。この平成23年度から平成25年度調査による肉の生食の意識の変化についてとりまとめた（平成23年10月及び平成24年7月に生食用食肉（牛肉）及び牛肝臓の規格基準を設定した）。

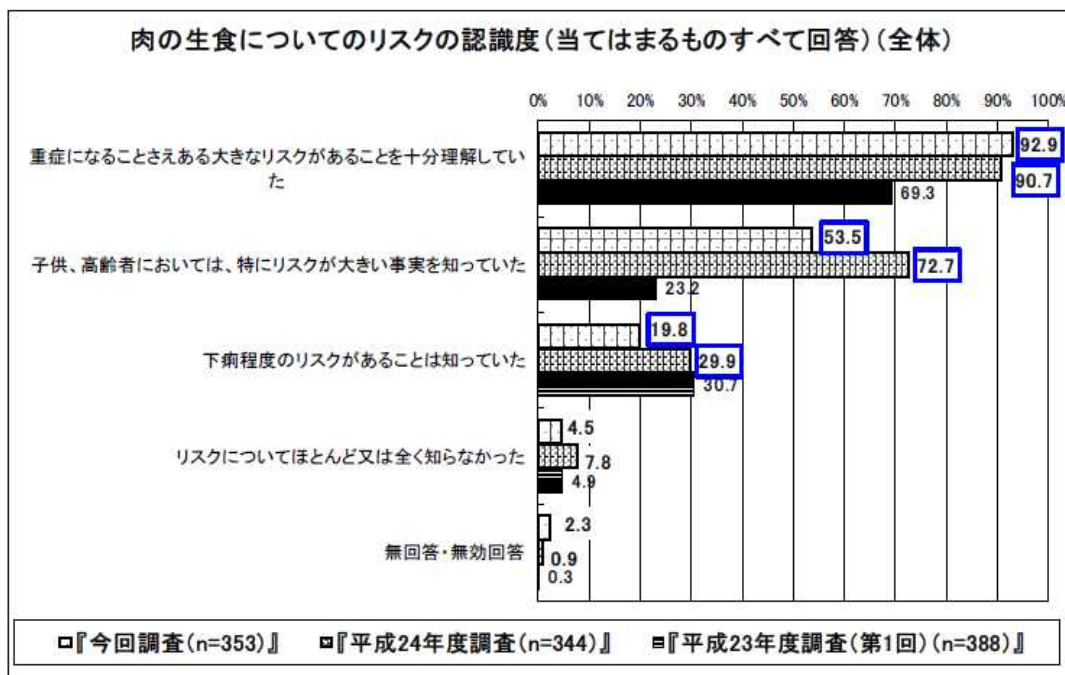
※ モニターは大学等で食品に関係の深い学問を専攻し修了した人など食品のリスク評価や食品安全行政について一定の理解ができる人を対象に募集している。

（1）肉の生食についてのリスク認知度の変化

○「重症になることさえある大きなリスクがあることを十分理解していた」の回答割合は、平成24年度では、前年度（69.3%）に比べ、90.7%に大幅に増加し、平成25年度の調査では、92.9%に微増した。

○「子供、高齢者においては、特にリスクが大きい事実を知っていた」の回答割合は、平成24年度では、前年度（23.2%）に比べ、72.2%に大幅に増加したが、平成25年度の調査では、53.5%に減少した。

○「下痢程度のリスクがあることは知っていた」の回答割合は、平成24年度では前年度（30.7%）と同程度（29.9%）であったが、平成25年度では19.8%に減少した。



（食品安全モニター課題報告「食品の安全性に関する意識等について」（平成25年8月実施）の結果より）

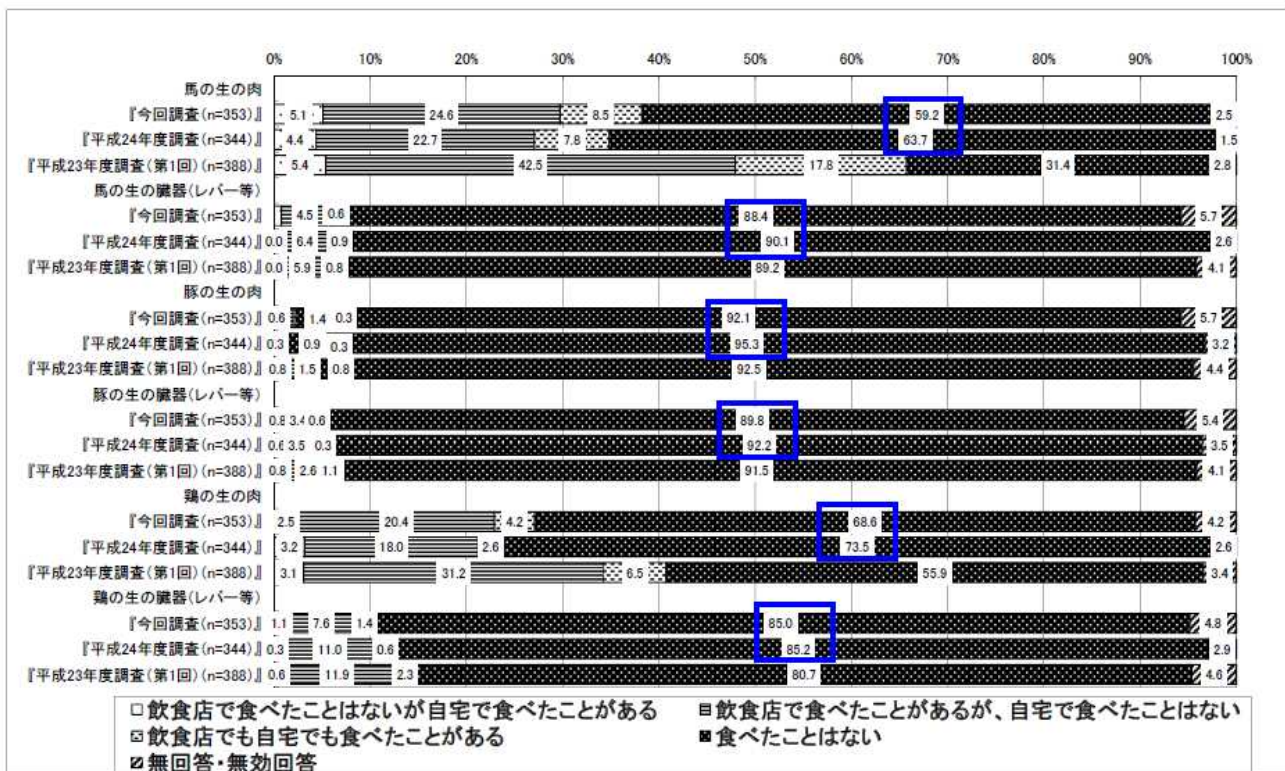
肉の生食は、重症になるほどの大きなリスクがあることについて、平成24年度以降、ほとんどのモニター（90%以上）に認識されるようになっている。

一方、子供、高齢者では特にリスクが高いことについては、平成 24 年度では大きく増加したが、平成 25 年度では認知度が低下している。

(2) 肉の生食の変化

過去 1 年間に馬、豚、鶏等の肉又は臓器を生食について「食べたことはない」と回答した割合について、平成 23 年度から平成 25 年度までの調査結果は、以下のとおり。

	23 年度	24 年度	25 年度
○「馬の生の肉」	(38.2% → 63.7% → 59.2%)		
○「馬の生の臓器（レバー等）」	(89.2% → 90.1% → 88.4%)		
○「豚の生の肉」	(92.5% → 95.3% → 92.1%)		
○「豚の生の臓器（レバー等）」	(91.5% → 92.2% → 89.8%)		
○「鶏の生の肉」	(55.9% → 73.5% → 68.6%)		
○「鶏の生の臓器」	(80.7% → 85.2% → 85.0%)		



(食品安全モニター課題報告「食品の安全性に関する意識等について」(平成 25 年 8 月実施)の結果より)

「馬の生の肉」及び「鶏の生の肉」については、平成 24 年度では、前年度と比べ「食べたことがない」との回答が増加している。

一方、平成 25 年度では、平成 24 年度と比べ、すべての食肉において「食べたことがない」の回答が減少している。

「豚の生の肉」、「豚の生の臓器（レバー等）」では、「食べたことがない」との回答は、9割程度であったが、平成 25 年度では減少している。